

株式会社 新晃社

●代表者／代表取締役社長 森下 晃一 ●創業／1985年10月 ●従業員数／80名
●所在地／東京都北区東田端1-7-3 ●URL／www.shinkohsha.co.jp

「テンプレート」を有効に使う 今後、受注増時に増設検討



正木工場長



柴崎課長補佐

(株)新晃社は、生産一貫体制を敷き印刷物製造業務に加え、同社の優れた設備を活用して印刷通販サービス「ネットDEコム」を開設するなど、印刷サービスの幅を積極的に広げる展開を行っている。昭和53年創業の同社は現在、本社に加え埼玉県川口市にはUV印刷機3台を含めた4台の印刷機を揃えた印刷工場を建設し、本社と工場の2拠点間で運用を行っている。

同社は3年前、ネット通販サービスを始めるに当たって、様々なサイズのジョブを効率よく処理できるワークフローシステムを検討し、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)の「XMF Smart」と

「XMF Remote」を導入した。

導入の理由としては、「他社のワークフローシステムも検討したが、通常の印刷業務と印刷通販業務の両方をカバーでき、しかもプレート内での異なる仕様のジョブの付け合わせ作業を自動的に行えるのが『XMF Smart』だった。また、プレートなどを含めたプリプレス部門の主要システムを富士フィルムという単一メーカーの製品で統一することで迅速なサポート対応を受けられることもポイントだった」と同社の正木将川口工場長は導入当時を振り返る。

また、通常の印刷業務と印刷通販業務を並行して行っているため、同社の営業部隊が受注してくる



物作りに参加している責任が生まれた

仕事は本社で校正済みのデータを川口工場へ送り、印刷通販業務は川口工場ですべてをコントロールするという並行業務を敷いている。「やはり営業が受注してくる一般の顧客の仕事は印刷通販とは違い、色合わせなど、よりしっかりと管理しなくてはならないので本社での作業となる」と正木工場長は、製作進行の違いを説明する。

導入の効果では、とにかく面つけ作業が早くなったことである。これは「XMF」が持つ特徴の一つである「テンプレート」を有効に使っているからだという。以前ならば専門知識が必要で、手間のかかる作業であったが、「今では女性社員が二人で、様々な作業に合わせた効率的な『テンプレート』を率先して作っている。これは、操作が習得しやすいだけでなく、出来上がりの状態が画面上で確認できることが大きい。自ら工夫して『テンプレート』を作ることで、物作りに参加しているという自覚と責任も生まれている」と同社本社製版課の柴崎聖課長補佐は言う。これは事故などの抑制にも繋がり、「面つけ上の事故はゼロになった。それとXMFを活用することで、自然と社員が楽しみながらチャレンジできる環境が生まれたことが大きい」と正木工場長は話してくれた。

また、XMFを導入したことで意外な面への嬉しい

波及もあったという。日々大量のデータを扱うためにはデジタルデータの整理整頓が欠かせないが、デジタル上にあるワークフローシステムを使いこなしているうちに、自然と作業環境の整理整頓ができるようになったのである。システム内で整然と作業するための整頓だけでなく、実際に社員が働く社内を綺麗にしようという意識が高まったと言うのだ。

XMFを有効に活用している同社は、印刷通販などに対応するため同社のMISシステムと連携し、異なるジョブの付け合わせを自動化する「XMF Planner」による運用が出来上がっている。「当社のXMFは最新バージョンに上げており、複数ジョブの並行演算処理が行えるようになっている。今後さらに、受注が増えた時には増設も検討したい」と正木工場長は言う。

前述したように同社の工場は埼玉県川口市にあり、印刷関連業者が集結する土地柄でもある。そこで同社は「川口でものづくり」をスローガンに印刷関連業者と共同で「川口ファクトリー」という団体を設立している。川口ファクトリーは各社の得意分野を活用し、1社だけでは作れなかった付加価値の高い高級な印刷物を提案している。現在、4社が参加しているが、今後さらに参加社は増える予定だ。